

高額報酬、「荷物運び」…

闇バイト手口 中高生知って

「匿名・流動型犯罪グループ（トクリュウ）」による「闇バイト」などの危険性を伝えようと、府警がタブレット端末を用いた啓発教室を府内の中学校や高校で実施している。SNSの利用が低年齢化する中、若いうちから手口を知ってもらおうのが狙いで、府警は今後も同様の取り組みを続ける考えだ。（松久高広）

トクリュウ

警戒中

「顔写真入りの身分証を送ってください」。お小遣いの少なさに悩んでいた男子高校生が、インターネットで「高額バイト」の募集を発見。言われるままにメッセージアプリをスマートフォンに入れ、学生証の写真を送ってしまふ。

久御山町立久御山中で4月16

府警が啓発教室

日、3年生約35人の端末に、紙芝居形式のイラストでそんなストーリーが紹介された。講師役が「高校生はどうなるだろう」と呼びかけると、生徒たちは思案しながら、「約束の金額はもらえなかった」「個人情報伝えて大変なことになった」などの感想を端末に入力していた。

府警は2019年、全国の都道府県警に先駆け、タブレット端末を使った「アクティブラーニング」のプログラムで防犯に

タブレット端末で闇バイトについて学ぶ生徒（久御山町で）



タブレット活用 危険性 自ら考えさせる

も心がけた。

参加した片岡大審君（14）は闇バイトについて「ニュースで何となく知っていた」とし、「今後、SNSでこういった募集を絶対見かけると思う。ポイントをわかりやすく理解できてよかった」と話していた。

警察庁は闇バイトを巡り、若者が「目先の利益のため安易に応募」していると指摘している。東京都では特殊詐欺で現金の回収を指示された中学生が摘発される事件も起きている。

久御山中の教諭は「子どもたちはインターネットなどを通して、大人以上に多様な情報に接している。トラブルを抱え込み、大人が把握できないケースは必ず発生する」と強調し、生徒自身が危険性を理解することが大切だと訴える。

府警サイバー企画課の寺井亮彦次席は「インターネットが使えることと、トラブルに対処できるかどうかは全く異なる上、闇バイトに関われば、子どもたちは被害者にも加害者にもなり得る。今後もアクティブラーニングを通じ、危険性などを丁寧に伝えていきたい」と話している。